

平成28年3月28日

キャリア教育支援資料「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット 「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える！キャリア教育 一個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけーについて

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターでは、新しくキャリア教育支援資料を作成しました。全国の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会に配布し、キャリア教育の更なる推進・充実を図ります。

1. 趣旨

この支援資料は、『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査』の結果を基に、作成したものです。上記の調査で、多くの先生方が、自らの生き方に関わるキャリア教育の充実は重要であることは実感しているが、個々の発達を踏まえた働きかけは、学校種によって違いや特徴をもつことが、明らかになりました。そこで、本支援資料では、意図的な働きかけである、先生方が「語る」、子供に「語らせる」、子供たちに「語り合わせる」をキーワードに、個々の発達を踏まえたキャリア教育について解説しました。

2. 主な内容と特徴（詳細は別紙参照）

■個々の発達を踏まえたキャリア教育について

子供たちが自分の生き方を見つめ、主体的に考え、将来自立して生きていけるよう、個々の発達を踏まえて働きかけるにはどのようにすればよいか、「語る」「語らせる」「語り合わせる」をキーワードに、日常の生活で、子供たちに意識して働きかけることの大切さについて解説しています。

■日々の学校生活や教科等の授業、体験活動などでの事例紹介

日々の学校生活で意図してコミュニケーションを行うことで、子供たちがどのように変わり、キャリア教育がどのように変わるのか、取組方のポイントもあわせて、事例ごとに解説しています。

3. その他

各都道府県・政令指定都市教育委員会及び各小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に送付し、併せて本研究所ホームページに掲載します。

【研究所ホームページ URL】 <http://www.nier.go.jp/>

（お問合せ）

国立教育政策研究所

生徒指導・進路指導研究センター総括研究官 長田 徹 電話：03-6733-6883

生徒指導・進路指導研究センター研究員 立石 慎治 電話：03-6733-6971

生徒指導・進路指導研究センター企画課長 五十嵐祐子 電話：03-6733-6879

生徒指導・進路指導研究センター企画課指導係主任 木村香奈子 電話：03-6733-6882

【広報担当】総務部企画室企画・広報係 電話：03-6733-6925

キャリア教育支援資料「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット
「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える！キャリア教育
一個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ

■ 本資料の位置付け

『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査』で、多くの先生方が、自らの生き方に関わるキャリア教育の充実は重要であることは実感しているが、個々の発達を踏まえた働きかけは、学校種によって違いや特徴をもつことが、明らかになりました。

そこで、本支援資料では、意図的な働きかけである、先生方が「語る」、子供に「語らせる」、子供たちに「語り合わせる」をキーワードに、個々の発達を踏まえたキャリア教育について解説しています。

特に事例では、将来の社会的・職業的自立に向けた一人一人のキャリア発達を促すために、意図してコミュニケーションが行われている様子を紹介しています。

各校において、よりよい実践のために、研修等に御活用いただきたい資料です。

■ 概要

pp. 2-3 個々の発達を踏まえたキャリア教育って何？

個々の発達を踏まえたキャリア教育を知るために、このパンフレットの趣旨を説明しています。また、先生方の悩みが解消されるページがわかるように、フローチャートで、本支援資料の構成を紹介しています。

pp. 4-5 個々の発達を踏まえたキャリア教育に向けて

「自らの生き方に関わるキャリア教育の充実」が重要であることは、多くの先生方が実感しているが、個々の発達を踏まえた働きかけは、学校種によって違いや特徴をもつことが明らかになったことを、調査結果に基づいて説明しています。

pp. 6-7 個々の発達を促す、「語る」「語らせる」「語り合わせる」

子供たちが自分の生き方を見つめ、主体的に考え、将来自立して生きていけるよう、個々の発達を踏まえて働きかけるにはどのようにすればよいか、「語る」「語らせる」「語り合わせる」をキーワードに解説しています。

pp. 8-13 日々の学校生活や教科等の授業、体験活動などでの事例

事例では、日々の学校生活や教科等の授業、体験活動、行事などの中で、将来の社会的・職業的自立に向けた一人一人のキャリア発達を促すために、意図してコミュニケーションが行われている様子を紹介しています。

pp. 8-9 小学校での1/2成人式や授業（特別活動）での事例

pp. 10-11 中学校での職場体験活動、高等学校でのインターンシップでの事例

pp. 12-13 中学校でのキャリアノート活用、高等学校での部活動推薦での事例

pp. 14 学年を超えて学びをつなぐ事例

「子供たちの活動や思いをつなぐこと」により、学びを積み重ねることの大切さを、事例を踏まえて紹介しています。

pp. 15 個々の発達を踏まえたキャリア教育

個々の発達を踏まえたキャリア教育は、先生と子供との関わりのみならず、子供たち相互の関わり場面において行うことができること、本支援資料のキーワードである「語る」「語らせる」「語り合わせる」は、進路相談の場面のみに限られるものではないことを解説しています。また、日常の生活で子供たちに意識して働きかけることの大切さについて、解説しています。

pp. 16 まだ言葉や文章になっていない気付きの言語化を

まだ言葉や文章になっていない気付きの言語化は、先生方にとっても大切であることを説明しています。また、キャリア教育のよりよい実践のために、これまでに発行された、本資料と関わりが深いパンフレットを掲載しています。